



ち★ネット！

平成20年 梅雨号（2008年6月発行）
VOL. 1（通算 1）
聖マリアンナ医科大学病院
メディカルサポートセンター 看護相談

平成19年より、地域医療ネットワークの更なる強化を目的とし、地域医療機関の先生方、訪問看護ステーションの職員の皆様方と情報交換、共に学ぶ機会として、「地域医療ネットワークの会」を開催してきました。「ち★ネット」の創刊をもって、会の報告をさせていただきたいと思っております。



平成20年5月29日（木曜日）
第3回「地域医療ネットワークの会」が開催されました。
今回は、「慢性呼吸不全・心不全で入院退院を繰り返していたが、地域の在宅診療・看護サポートを得て自宅療養の継続が可能となった症例」について、話し合いがもたれました。



当日雨天の中、10施設 51名が参加してくださいました。

患者紹介を、聖マリアンナ医科大学病院
呼吸器内科 大重 雅寛 医師
地域サポート体制整備を、
聖マリアンナ医科大学病院 MSC 齋藤祐子
地域医療サポートを
いきいきクリニック 武知 由佳子先生が
説明してくださいました。



ディスカッションでは
入院退院を繰り返している患者の療養先の選択を在宅と考えられたのはなぜか、という質問があり、担当している医師・看護師から病状コントロールがなかなか出来なかった症例ではあったが、ご本人の性格がとにかく明るく、家族も在宅療養を望んでいたことが選択に至った理由と述べられていました。
訪問診療・訪問看護が連携を密にとり、対応していたことに関して、病院内職員からはなかなか知ることが出来ない地域医療を知ることが出来たという意見が聞かれていました。
また、病院での症状コントロール・リハビリテーションが、在宅で継続できるものかどうかということも考えていかなければならないということがわかったという意見もありました。
地域医療サポート間でもリハビリテーションに関する意見・情報交換がされていました。
訪問診療医間では、診療中の検査の方法などについての情報交換がされていました。



↑ 集合写真です。

2008年度はあと3回「地域医療ネットワークの会」を企画しております。